

地域連携フォーラム in 盛岡

シンカ する 農業

持続的な発展への挑戦



10月12日 水

14:00~17:00

来場 70名 WEB 100名

盛岡市産学官連携研究センター
(コラボMIU)

上田4丁目3-5 岩手大学理工学部内

参加無料



お申し込みはこちら ▶
締切 10月5日(水)

またはコラボMIU(miui@iwate-u.ac.jp)あて、
①氏名 ②所属 ③参加方法(来場又はWEB)
を明記の上、お申し込みください。



次 第

挨拶
14:00～14:10

盛岡市長 谷藤 裕明
岩手大学 学長 小川 智

基調講演
14:10～14:50

里山型の持続可能な食料生産モデル構築に向けて
岩手大学農学部 作物学研究室 教授 下野 裕之 氏

異常気象に負けない作物を育てるための機構の解明、冷害、直播等について研究。初冬の田んぼにタネを播き、そのまま雪の下で越冬、春に発芽・苗立ちさせる初冬播きの確立に取り組む。

今回のフォーラムでは、小規模生産者を取り残さず、農林水産の枠を超えた「新たな里山型の持続可能な食料生産モデル」の構築に向け、今後の展望を述べる。

研究・事例紹介
15:00～15:50

**連携の力で、安心して暮らせる地域づくりを
～地域熱エネルギー循環モデルの紹介～**

東日本機電開発株式会社 代表取締役 水戸谷 剛 氏

地域を支えるインフラのため、設計からオーダーメイドで制御盤等を製造。加速器産業やエネルギー産業への参画に向け、岩手大学と共同研究を実施。

ハスクレイと呼ばれる低温で再生可能な高性能吸着剤を活用した熱エネルギー利用について研究。繫地区の温泉熱をハスクレイへ蓄熱し、ハウスで放熱させ夜間暖房に利用。

**うるおいある農園を目指して
～夏いちごの新規就農とその可能性について～**

玉山うるおいイチゴ園 園長 菊地 潤 氏

システムエンジニアとして勤務後、4年の研修を得て、2021年4月、渋民にイチゴ園を開園。初夏から秋にかけて収穫する夏イチゴ「すずあかね」を栽培。

盛岡市の「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」により、新規就農の農業経営体から見る、多角化経営の分析と将来展望について、東洋大学と連携事業を実施。

特別講演
16:00～17:00

**シンカする水稻農業
～穂海グループの経営と生産現場から考える～**

株式会社穂海耕研 代表取締役 丸田 洋 氏

新潟県上越市にて180haを超える大規模農場を営む。「つくる、つなぐ、つたえる」をキーワードに、水稻栽培だけでなく、米穀の集荷・販売、マーケティング、コンサルティングをグループ全体で行う。

2005年就農。2007年、JGAP団体認証（穀物）の第1号。2017年、「未来に繋がる持続可能な農業推進コンクールGAP部門「農林水産大臣賞」」受賞。岩手大学・下野教授と初冬直播に関する共同研究を実施。



主催 盛岡市・岩手大学連携推進協議会 (TEL 019-621-6682)
後援 いわてアグリフロンティアスクール運営協議会、岩手県工業技術センター、岩手県中小企業家同友会、いわて産業振興センター、岩手中央農業協同組合、岩手ネットワークシステム(INS)、いわて未来づくり機構、公益社団法人岩手県農業公社、盛岡広域振興局、盛岡工業クラブ、盛岡商工会議所、盛岡広域7市町(岩手町・葛巻町・雫石町・紫波町・滝沢市・八幡平市・矢巾町)